

た。商社マンの妻となったMさんは子供をハーバード大学に入学させ明るい家庭をつくっていた。

職業別にみると、大手商社員、外交官、学者、銀行員などが多く、海外における日本の頭脳としての重要な役割を果たしている。

附属高卒業生は、内に貯えた実力を外にひけらかすことがなく、おおらかに生きている。自己には厳しいが他人には寛容である。

附属学校の入学試験制度が新聞紙上で大きく取り上げられ、抽せん制の導入が強調されている。文部省もまたそれを要望しているようである。一般論としては、私もそれに決して反対するものではない。しかし、その結果、国家の柱石となるべきリーダー養成を国立の附属学校のすべてが放棄することになるのを恐れる。学習指導要領の総則にも述べてあるように「生徒の能力・適性等の的確な把握に努め、その伸長を図るように指導する」ことが必要である。したがって、知能指数の低い生徒のためには、国立の附属養護学校が設置され、少数の生徒のために莫大な予算が投入されている。それは誠に喜ばしいことである。しかし、それと同時に、知能指数の極めて高い生徒についても特別の配慮をすることがなければ、公平の原則に反するように思う。国立の附属学校の中に、能力の高い生徒のための附属養護学校又は養護学級がいくつかはあってもよいのではなからうか。

リーダー養成を忘れれば、国家は衰退するものである。

## 計画するということ

井手久登

英語のPlanおよびPlanningの両方とも日本語では計画と訳される。計画された結果も計画策定段階の行為も日本語では同じだから大変に厄介なことになる。Planは限られた情報を基にPlanningされた結果であり、Planに現実的の不都合が生じたならPlanning Processから考え直さねばならない筈である。しかし現状では、一度できあがってしまった多くの公的計画はそのプロセスがいかに関係あろうとも、一般の人々に対しては絶対的権威をもって君臨しようとする。それに対して本来国の大方針であらねばならぬ諸計画は案外と簡単に短時間で変わってしまう。これは全く困ることなのであるが、前者の計画はPlanとして、後者の計画はPlanning Processの中での恣意的願望（たとえ科学的必然性はなくとも、そうしたいという意図）を恰も必然的結果としてのPlanのように示しているからであろう。

いずれにしても、ここで表わされているPlanは双方ともPlanning Processを明示しない点では共通している。これはPlanningという行為が何か神秘的な特殊能力の持主によるブラック・ボックスの仕事のように思われていることをうまく利用しているからである。

Planningとは本来いくつかの有効な情報を基礎にして（全ての情報を集めることは不可能であるから、その中で最も効果的な指標性の高い情報を抽出して）将来の在り得べき姿を論理的に設定する作業といえることができる。その結果与えられるPlanはいくつかの可能性の中の一つであり、一定不変のものでもなく、それまでの成果の一応の集大成である。情報に変化が生ずれば当然Planと

Planningの関係を見直さなければならないであろう。必要な情報が豊富で正確であるならばPlanの整合性は持続力をもつが、欲求だけが先走りして、つじつま合わせの数字をあとから付け加えたようなPlan（本当はこれはPlanとはいえないが）は、短命であるのは仕方ないことである。

わが国では基礎資料が乏しいまゝPlanningを行うためPlanningがブラック・ボックス的になり、Planに整合性が乏しく、したがってそれを権威でカバーしているということになるわけである。

かつて公的なPlanは封建領主や王侯の意志の中にあり、一般の者はそれにたゞ従う形をとっていた。その習慣が今日にまで残存しているような気がする。この関係を直すためには一般の人々がもう少しPlanningに興味をもつことが必要であると思う。Planningを建設関係の分野の人々の占有物にしておいてはいけないのである。

私的な意味でのPlanningという行為は日常的にわれわれの周辺にいろいろとある。例えば旅行の計画とか、同窓会の企画あるいは1ヶ月の家計のたて方などもそうである。これらは何度も経験していると、自然に要領がわかってくるから、次の場合にはどうすればよいかがおおよそ見当がつくようになる。Planに確定性が増してくるのである。都市計画なども同じことで、いくつかの事例を経験した人のPlanは、新卒者の理詰めのPlanより尊重されがちである。こゝにも経験主義が生きている。計画が未来と関係する限り、人々はそれに対して憶病になるからであろう。

しかしながら、未来に大きな夢を描くことはたとえそれが実現しなくても楽しいことである。旅行の計画などコースと時間を考えるだけでも一つの楽しみである。計画するということが、合理的な生活行動の指針を得るためばかりでなく、それ自身が実現とは無関係に楽しいことだという一面をもつが故に、人々は常にいろいろと計画をたてるのではないだろうか。そう思って現在のわが国の政府の諸計画や都市計画などをふりかえってみてみると、なるほどと納得がいくのである。

## Dさんへの手紙

中野 尊正

お手紙拝見しました。1年半の日本留学という、子供の時からの夢が実現しましたことを、心からおよこび申し上げます。貴女の恩師C教授の御依頼もあって、貴女の日本での御世話をすることになりましたことを光榮に思います。

前便にでも申しあげましたとおり、フィールド・ワークの御世話をしつづけたい方には、すでに御手紙を差上げてありますので、御含み下さい。あらたな御希望がございましたら、どうぞ気楽に申して下さい。研究は貴女自身がするのであるから、貴女の若い、生きいきとした洞察力で、疑問をきりひらいて下さることを期待します。

フィールドが、日本の北から南までと広域にまたがっておりますので、貴女の研究テーマにこだわらずに、多様でユニークな日本の自然と文化を見て頂きたいのです。ニュージーランドと比べて、自然のなりたちには類似点も多いのですが、人々の生活や文化には、貴女にとって、きつと、いつまで